座談会

創立７０周年記念座談会

高田工業高校創立 70 周年記念誌より
（高田工業高等学校賛助掲載）

●と　き　昭和６０年１０月２５日
●ところ　旅館高田館
●（敬称略）

Ａ－Ｍ　明治３４年生れ。２３歳の若さで理科教員として高田商工学校へ。以後定年退職まで本校一筋。戦中戦後の激動期に校長代理をされるなど、ゆるぎなき本校づくりのために全力を尽くされた本校歴史の生き証人。金沢市野に在住。

Ｔ－Ｎ　明治３８年生れ。大正６年の木工科入学生。満州の学校勤務を経て終戦後長年月本校の工芸科実習教員として活躍。氏の厳格な的を得た実習授業には定評があり、これを懐かしむ卒業生は多い。上越市南城町に在住。

Ｓ－Ｋ　明治３７年生れ。大正６年の木工科入学生。高田物産会社を経て、昭和２年から４２年まで木材工芸の教員として本校の発展に尽力された。上越市西城町在住。

Ｉ－Ｍ　大正元年生れ。昭和６年に商工学校商科を卒業。日体大を経て本校の体育教員を３７年間も勤める。県スキー連盟理事長、全国高体連理事などの大役も果たされた。上越市鴨島に在住。

Ｓ－Ｈ　明治４４年生れ。昭和８年に木工科を卒業。本校には３５年から６年間教員として勤務。退職後は市議会議員として活躍。同窓会の会長は５１年７月からで、６０周年時も寄付金集めに奮闘され、今回も。上越市大字今泉に在住。

◆司会　Ｋ－Ｆ　昭和１８年工芸科卒。昨年までデザイン科教諭。退職されて現在版画家として活躍中。上越市南城町在住。

Ｒ－Ｈ　昭和２５年土木科卒。現土木科教諭。上越市荒町中川原在住。

黎明期の思い出

司会　皆さん、ご多忙な中をようこそおいで下さいました。特に A-M 先生には遠方よりご来高頂き誠に有りがとうございます。今日は私共の大先輩である皆様方から、本校の創設当時のことについて、いろいろお伺いしたいと存じます。……では早速ですが、自己紹介から始めて下さい。

自己紹介。大正時代に本校へ

A-M　私は生れは埼玉県、本籍は中頸城の吉川町です。学校は中学が熊谷、そして金沢の薬専へ行き大正１１年の８月にこちらへご厄介になった訳です。それから３７年間、無事勤め上げさせて頂きました。今日久方ぶり学校を訪ねましたが、浦島太郎かくもあったんではなかったか、と思われるようなみごとな校舎・施設を拝見し、オンボロ校舎で悪戦苦闘した昔を格別懐かしんだ次第です。

T-N　私は大正１１年に本工科を卒業し、高田物産会社へ就職しました。そこで、木工品や木製スキーなどを作りました。それから高田木工指導所に勤め、何年かして学校の方へ来て欲しいと言われ、本校へお世話になりました。

S-K　A-M 先生が大正１１年に来られた時に、私は卒業したんです。そして、T-N 先生と同じ様に物産会社に入りました。商工学校の木工科の職員となったのは昭和２年です。以後３７年間も勤務したわけです。退職して後も３年間ぐらい講師に来ておりました。

S-H　私は、今の南城高校の場所に新校舎ができて、乙種から甲種に昇格し、市立から県立へ移管された時の木工科入学生です。ここにおられるA-M先生、T-N 先生、S-K 先生にお習いしました。
　当時は世の中が不景気で、卒業しても就職できません。決まっていた会社からも断わり状が来る始末です。それで担任の岡崎先生に相談しました。「小学校の手工の先生にでもなれ」と言われました。仕方なしに教員の単位取りに長野や富山へ試験を受けに行ったものです。本校には昭和３５年から６年間勤めました。

I-M　昭和６年、商工学校商科の卒業生です。ご存知の方もいられるが、勉強は大嫌い。スポーツばかりやっていた生徒でした。日体大に進んで昭和８年に卒業し、１４年に教師になったわけです。私の一番嫌いな先生になってしまった。さてどの様に教えていけばいいか。大学の講習会などに行きそれなりに苦労しました。自慢できるのは、退職するまでの３７年間、事故とか病気で学校を休んだことがなかったことです。

創立当時の熱気

司会　有りがとうございました。それでは、創立時の思い出から始めましょうか。S-K 先生は第１回の卒業生でいられますね。

S-K　私は、３年制の乙種から５年制の甲種になったその時の第１回卒業生です。卒業生は全員で１５名。木工科４名と漆工科１１名でした。現在生き残っているのは、１５名中たったの５名です。淋しい限りです。ところで、T-N 先生は私より大先輩、乙種時代、大正１１年の卒業生でいらっしゃる……

I-N　そうです。大正１１年……その頃は我が国の産業革命期というか、高田市としても、何とか産業を興したい、と市民あげての願いがありました。といっても鉄はない石炭はない。有るのは木ばかりです。よしこの木を生かして産業化しよう、ということになってその産業人を育成するために「高田市立商工学校」ができたわけです。ですから、この学校の教員はもちろん生徒も皆意気に燃えていました。

S-K　例えば「展覧会」……丁度私が入学した大正６年の６月でしたが、私たち生徒は何日間も実習室に寝泊まりして作品を仕上げたものです。この展覧会は、商工学校を市民にも知ってもらおうと３日間も開催されました。実習で作った重箱や机や書だな等３００点ちかくを展示即売したわけです。

T-N　とても評判が良くて始んどが初日に売り切れてしまいましたね。ハシゴとかチリトリなども作って売りましたね。商科の方でも何か売っていたようで

すが……

I-M　商科の方では、街の店先から品物を預かってきてそれを売っていました。

司会　創立当時の熱気が伝わって参ります……

S-K　乙種の３年制は、勉強の中味は実習だけでした。５年制になって初めて英語と代数が入ってきました。今思えばごく基礎的なものですが、最初習った時にはハッと驚きましたね。本当の学問のような気がして―。

T-N　意気に燃えて入学した仲間も、学資が続かなくなって中途でやめていく者もかなりいましたね。その頃の授業料はたしか月額３０銭、工科生は市が奨励金を補助して月２０銭だったと思います。

S-K　卒業すると殆んどの者が「高田物産会社」へ入社しましたね。T-N 先生も私もそうですが、この会社で家具づくりに専念しました。この会社は大正７年１１月に市の肝いりでつくられ、第一工場は木工関係で今の長崎屋デパート跡、第二工場は漆工関係で寺町と北本町にありました。大正１４年につぶれましたが……A-M 先生は、もうその頃本校にお勤めでしたね。

新校合へ、そして戦争

A-M　私は金沢の薬専を卒業の時、北海道庁に就職が決まっていたんです。が、当時は政変があるとお偉方の首が皆代わってしまう。このため私の内定辞令もダメになってシビレを切らさせていました。その時、校長の小川延賢氏から「理科の教員が居ない、来ないか」と声がかかり、商工学校の様子を知らないままこちらに来ることにしました。

だが高田に来て驚きましたね。学校には理科の実験道具として、試験管台が１つと試験管が２本だけ。これでは授業などできっこない。勤めて３日目にもう辞めたくなりました。「お前、せっかく郷土に就職できたのに何を弱音を吐くんだ。郷土の若者を立派に育てようとする気持がないのか」と商大出の大塚先生に一喝されて本気で勤めを始めたわけです。

T-N　当時の商工学校というのは、現在の高田図書館の場所で木造校舎、廊下の戸は障子張り、体育館は小さな部屋、しかも真中に柱があった。グランドは猫の額ほどしかなかった……。

S-K　そんな狭苦しい学び舎の中でも、先生たちは全員が羽織袴で気品があって、教育にはとても熱心だったですね。

A-M　だから、なんとか新しい校舎が出来ないものか、皆んなが期待していた。そしたら丁度いい按配に、今の南城高校の所ですが、新校舎が造られることになった。授業をしていると、カーンカーンと工事の音が響いてくる。その音を聞くたびに、私たちのいい校舎ができるんだと実に嬉しく思ったものです。

S-K　新校舎ができたのが大正１１年。私はこの年に卒業し、春から勤めを始めていましたが、移転の様子は後輩から逐次知らされていました。在校生が一列になって机や椅子を担ぎ、まるでお祭り行列のさわぎだったとか……。

A-M　そうなんです。えらいさわぎでした。新しい校舎に皆喜こんだんですが、商科と工科の職員間になんとなく違和感が生じましてね。困ったんです。授業も、商科は６時間、工科は７時間でしたから何をやるにも統制がとれなくて困りました。それで、商科も工科も共に発展するには分離した方が良くはないか、と誰もが思うようになった。

分離前になりますかね。工科の志願者が減って来た。木工科の方がまだ良かったが、漆工科の方の入学生が足りなくなった。校長に県からいろいろ指導もあったようです。二つを一緒にして工芸科とし、その中に木工分科と漆工分科を置き体裁をととのえようとしたわけです。この頃、戦時となって学校はまる

で工場化してしまいました。

S-K　昭和６年に支那事変がありましたが、その頃、私は高田陸軍病院から傷病兵のための職業指導を学校を通じて委嘱されました。片手片足を失った彼らにも出来る洋塗装・スプレー塗装を数年間指導しました。そのため陸軍省から感謝状を戴いて今も家に持っております。

　特に、昭和１８年、建築科が増設されましたが、入学生は入学と同時に農村へ勤労奉仕。３年生以上は学徒動員として市内外の工場へ。遠く名古屋の工場へ送られた者さえいました。私も昭和２０年の冬、未曽有の豪雪でしたが名古屋へ交代出向しましたが、家に６歳と４歳と２歳の子供を残しての出張でしたから全く悲壮な旅立ちでした。

A-M　当時は、飛行機づくりの献金とか、戦時債券の強制割り当とか、食料事情の悪さとか、日本国中極めて暗い経済状態でした。そんな中で、建築科２５名、土木科２５名、計５０名の工業科の建物をなんとかして欲しいと、県会議員に働きかけ県へお願いに行ったんです。そしたら知事が、「今は土木科の必要はない」と却下してしまい、建築科だけが、商工分離の条件で認められました。

司会　……ところが、その為の設立負担金として３万円が必要となったとか――経済事情の悪い中、その金集めに大変ご苦労なさったと聞いていますが…。

A-M　そう、大問題でした。結局、商科については工科が、工科については商科の同窓から協力してもらう事になりました。ところが、石黒さん、相馬さん達を中心に何回も何回も会合を開いたがどうにも打開の道が得られない。皆んな困っていましたらヒョイと突飛な案が出たんです。「この際、恥をしのんで高田中学の同窓にお願いしてみたらどうか」今は亡き山本惣治社長に頼んで在京の高田中学同窓会に寄付集めをしてもらうことにしたわけです。

司会　それで寄付集めの方、うまくいったんですか？

A-M　さて上京ということになりまして、物資の全くない時ですから、川浦さん、石黒さん、岡庭さん、大島さん達が苦労して米、味噌、木炭、肉、栗などをヤミで集めて下さいました。それを分担してリュックに詰めて手土産に持って行ったのです。当時は警察の目が光っていましたから、途中で取り上げられては大変だ。それで校長が知り合いの駅員に頼み込んで、荷物の方は貨車に積んでもらって私達は客車で行きました。大変な苦労でした。

　しかしなかなか寄付が集まらない。続いて２、３回上京して、なんとか予定の３万円を集めて頂きました。それでやっと建築科が設置になったのです。

司会　その翌年ですか、今度は国から土木科を造れ、と言われて新潟県では一番初めに土木科が設置されたのは――、こうしてやっと木材工芸、建築、土木の３つの科を持つ工業科ができたわけですね。そして終戦となって校合が南城から現在の兵器跡地へと移ったのですね。これがまた大変だったようですが……。

A-M　丁度この頃、鉄道省でも研修所を造る計画があって、この方からも跡地を現金３００万円で欲しい、という話が持ち上っていたんです。それで進駐軍の方では希望者を集めて、利用計画を聞く公聴会、いわゆるレクチャーですね。これを開催した。本校では、大急ぎで具体的な利用計画書を作って設計図を添えてこの会に臨みました。

　多くの希望者の激しい競争の中で私たちの学校が勝てたのは、後で聞いた話ですが、担当のライト中尉がアメリカの工芸学校出だったとか……。それで本校に特別の好意を持って頂けたのでしょう。こうして運よく移転できたんですが、ライト中尉が居なかったら今の学校はなかったかも知れませんね。今でもそれを思うと本当にありがたいと思います。

それから１年ほど経って、内部を改造してどうにか授業が出来るようになった頃でした。ライト中尉がひょっこり学校へ来られ、早口の英語で何か言われたのですが、何を言われたのか誰一人わからなかった。多分良かった良かった、と喜んで下さったんでしょうね。

S-H　今のお話は初めて聞かせてもらいました。

I-M　私も初めてですね。ライト中尉から広い敷地がもらえたので、後の機械科や電気科もスムースに出来たんですね。

当時の学生、想い出の生徒

司会　S-H 先生の頃は、学生運動というと大げさですが、生徒の動きで工科の授業内容がかなり変っていった、と聞いていますが……

S-H　先程 A-M 先生のお話にもありましたが、商科は６時間なのに工科は７時間の授業。７時間目はいつも実習なんです。「一週間のうちに実習が多すぎる。これでは徒弟学校ではないか。もっと座学を増やせ」と騒いだわけです。私が入学した頃、先輩の相馬新太郎さんや山本富士男さん達が盛んに気勢を挙げておりました。

学校側でかなり気にしたんではないでしょうか。それからしばらくして長岡高等工業(現新大工学部)の機械を出られた島岡先生が赴任して来られたし、T-N 先生が仙台にある商工省の木工指導所へ研修に行って来られたし、実習内容が以後急に変わってきたと思われます。私もたくさんの製図を見せられたり、２０枚近く写したりしましたが、あの製図実習は本当に良い勉強になりました。

T-N　私が仙台から持ち帰って来た図面は、今で言う設計図面で、いろんな家具や木製品の意匠や構造を正確に描いたものでした。

S-K　その頃、小暮先生が中央より派遣されて来られましたね。あの方が来られてから、本工科の実習もえらく変わって充実しました。

司会　次に同窓会のことで何か……。

I-M　私は商科出身ですから全然わからなくて何も協力できませんでした。私が職員となった頃は、T-N 先生や S-K 先生が中心となっていろいろやっておられましたが、S-H 先生はいつ頃から奮闘されているのですか。

S-H　同窓会の幹事になったのが昭和２８年です。それから間もなく信金の石黒愛規さんが同窓会長となられて、いろいろ尽力されました。でも理事長という要職でとても忙しく同窓会の出張などは出来ないので、相馬新太郎さんと私とが代理を務めました。やがて石黒さんは高齢とのことで、会長を相馬さんにバトンタッチされたのです。ところが相馬さんは直に亡くなってしまわれた。副会長の私がいきなり会長にさせられたわけです。

会長としての思い出は、なんと言っても本校の６０周年、今から１０年前のことです。当時の平田校長が「東京周辺には２、３千人の同窓生が居る。同窓会東京支部を是非とも作って欲しい」と勧められて、在京の諸君から協力いただきこれを作ったことです。それに、この６０周年の時、寄付金８００万円を目標に頑張っていたところ、建築科卒の永野理一郎さんがポンと１００万円を下さった。学校の施設充実に使わせて頂きました。またこの時、同時に同窓会の基金を作りました。この基金は以後の会の運営に大変役立っています。

そして現在、７０周年の実行委員長です。今回も相当額の寄付目標を示されましたが、今の景気ではとても無理だと思われます。しかし出来るだけの事はして来たつもりです。

司会　ご苦労いただいて本当に有りがとうございます。残り時間が後わずかとなりました。昔の生徒にまつわる思い出を最後にお聞きして終りたいと存じます。

I-M　商工が分離して工科が本城の兵器庫跡へ移って来たのですが、初めのうちは毎日毎日土運び。今の城東中学と本校のグランドの所が弾薬庫だったんです。その周りは土手になっていた。この土を裏のグランドを造る為に、毎日放課後１時間作業をさせたんです。ところがモッコは有ったが荷車も一輪車もありません。大変困りました。たまたま私の叔父が新井で車屋をしており、お願いして４台借りてとても助かりましたね。生徒も職員も本当に一生懸命働きましたよ。

　もう一つの思い出は、どの教室も天井が張られていなかった。だから隣の教室の声が丸聞こえで、こちらの授業の声が通じなかった。それに、当時はどんなに寒くてもストーブがなかった。それでもその頃の生徒は良く勉強しましたね。体育館は軍の車両庫であったため御影石で敷きつめられており床が張られていませんでした。だからマットや柔道の畳を使って体育の授業をしましたが、我々教師はケガをさせないよう大変気を使いました。好天の時は外で走らせましたが下地が悪いのですぐ足が切れてしまった……。昔は海軍記念日が５月２７日、校内１０キロマラソンはこの日と決まっていました。当時は食糧事情が悪く、「マラソンなんて無茶だ、止めろ」と父兄から苦情が来ました。しかし私は強引に毎年続けてやりました。昔の生徒は本当に良く頑張りましたね。

A-M　私が来た頃は全般的に生徒の数学の力が弱かった。なんとか力をつけさせたい、と中学の教科書を手に入れて授業のあい間に中学の問題をやらせておりました。初めは余り効果がでなかったが、皆だんだん出来るようになって来ました。頭の良いのが集まっていたんですね。山口班司という生徒がいましたね……。

S-K　あの人は学生時代から大変頭の良い生徒でしたね。恐らく、工芸科出身者の中で一番最初に博士になられた方だと思います。高山の小島家に養子に行かれて、小島班司となられました。

A-M　そうですね。私、高山の小島家に遊びに行ったことがありますよ。えらく歓待されたことを覚えております。あの方は、今は名古屋でコンサルタントの会社を経営されているようです。

S-H　小島さん以外で博士になった人では、建築出身の毛見虎雄さんがおりますね。工学博士で建築学会賞を受けられ、今は戸田建設の技術研究所長をされています。それから、現在日大の教授をしている関沢勝一さんも建築科の出身ですね。このように、以前は頭も良く頑張り屋の生徒がとても多勢おりました。

司会　まだまだいろんなお話を伺いたいのですが、予定の時間も過ぎております。この辺で終らせて頂きますが、今日は大先輩の皆さま、貴重な多くのお話を大変ありがとうございました。

S60.10.25
於:旅館高田館